

那賀町議会からお知らせ



那賀町議会：ホームページアドレス
http://www.town.tokushima-naka.lg.jp/gikai/

令和元年12月定例会議

一般質問から

主な質問とこれに対する長や関係課等の

答弁の要旨は次のとおりです。



静好洋議員

四季美谷温泉の運営について

Q 将来への明るい展望が見えにくい状況下、地域での事業継承を考えるなら、町長の在任期間中に新たな事業運営者（指定管理者）を確保しておくべきではないか。

坂口博文町長

A 令和2年度の経営状況も含めて、次期指定管理については充分検討し、現社長とも相談をさせていただきたいと思っている。

台風被害の想定について

Q 10月襲来の台風19号が、仮に足摺岬または室戸岬に上陸し、更に和食・土佐地区造成中の堤防が完成しているものと想定して、平成26年8月台風では279戸あった浸水被害は、どこまで軽減されたと想像するか。

河井伸夫防災課長

A 台風19号が徳島に来たとしても、その影響は平成26年台風2号と同レベルだと思っている。その浸水被害を防ぐ堤防を建設中なので完成すれば、たとえ19号が徳島に来たとしても概ね浸水被害を防げると考えている。

内水対策事業完成後の被害想定について

Q 内水対策事業が完成していたとして、和食・土佐地区にどのような被害をもたらしたと想像するか。
河井伸夫防災課長

A 町の内水対策として南川排水路新設事業を進めているが、それは県の堤防事業にプラスし効果を発揮する事業。県では床上浸水しないという解析の下、堤防事業を進めているが、それを更に軽減するために実施する。



田村信幸議員

タブレット導入1年経過後の各校の取り組み状況と今後の推進方針について

Q 昨年9月にiPadが学校現場に導入されたが、活用状況を伺いたい。また11月に町内小・中学校を会場校とし「中・四国地区へき地教育研究大会」が実施され、ICT教育環境の効果も謳われているが、今後の推進方針も伺いたい。

福多士郎教育次長

A 学校によって、また小学校と中学校によってバラツキはある。県下でトップクラスの設備を有しているので、研修会を通して積極的な活用を促していきたい。

岡川雅裕教育長

A 教育総合センターや民間の研修に対して旅費の支給や研修費の負担を考え、積極的に先生方に研修に参加していただくように働きかけたい。

次期「新那賀町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に向けた取り組みについて

Q 6月議会で次期総合戦略策定状況や町民への説明会・意見交換会の見通しを伺ったが、現総合戦略における課題や未達成項目が何で、それらを次期総合戦略にどう活かすのか伺いたい。町民への説明会・発信についても伺いたい。

三好俊明まち・ひと・しごと戦略課長

A 現時点では、全67項目中24が達成、43が未達成となっている。未達成のもので達成見込みが低いものについては、国・県の動向を踏まえながら削除もしくは変更とする。町民への発信は座談会と概要版配布により行う。

坂口博文町長

A 町民の皆さんの御意見も充分お伺いし、また議会の皆さんの御意見もお伺いした上で、中身を充実させた形と併せて財源確保については、国の方には強く要望して参りたい。

国は認知症予防や要介護度の維持・改善に向けた取り組みを一層促すため「介護予防の交付金倍増へ自治体の競争を促す」方針だが、本町の取組状況と今後の方向性について

Q 本町では「認知症サポーター」の割合が県内一で、「フレイルサポーター・フレイルトレーナー」事業にも努めている。「いき100推進プロジェクト」にも積極的に取り組んでいるが効果はどうか。また今後の国の方針について、本町にどのような影響があるか伺いたい。

池田繁人保健医療福祉課長

A 那賀町としては「いきいき百歳体操」を平成28年度から、今年度から「フレイル事業」に力を入れている。効果は、参加している人の動作・表情がいきいきしており、かなり健康な感じである。今後、地域の皆様と医療・介護専門員の方達がスクラムを組むことで、健康でアクティブなシニアの輪が県下一円に広がり、健康・予防意識、健康寿命の延伸、地域の活力向上に繋がっていくと思う。



連記かよ子議員

わじき道の駅について

Q わじき道の駅のこれまでの経緯について。また今後の対策について。

吉岡敏之建設課長

A 収支状況が大変厳しいことにより指定管理者から指定管理者辞退の申し出があり、12月末をもって指定管理者の取り消しを行った。早急に指定管理者の募集を行い、できる限り早い時期に営業が再開できるように努める。

坂口博文町長

A 指定管理者を公募させていただき、その方々の条件もお聞きし、できる限り応募者の御意向も汲みながら、町として対応して参りたい。

那賀町もみじまつりについて

Q 期間中の観光客数は、今年の紅葉はいまいちという情報が口コミで流れ、全体的に減少した。四季美谷温泉も昨年より522人減少している。旧出合橋の上カフェイベントは天気も良く、一定の成果なり効果はあった。県も継続していききたいと言っているのに、商工会上那賀支部女性部と協議しながら経済効果上がるよう取り組んでいきたい。

幾田博行にぎわい推進課長

A 期間中の観光客数は、今年の紅葉はいまいちという情報が口コミで流れ、全体的に減少した。四季美谷温泉も昨年より522人減少している。旧出合橋の上カフェイベントは天気も良く、一定の成果なり効果はあった。県も継続していききたいと言っているのに、商工会上那賀支部女性部と協議しながら経済効果上がるよう取り組んでいきたい。

小・中学生の携帯電話やスマートフォンの使用について

Q 学校での持込や使用についてのルールは定めて

いるのか。またこれまで子ども達への被害はあったのか、子ども同士におけるトラブルはなかったのか。

福多士郎教育次長

A 全ての学校で持ち込みを認めていない。学校では防犯教室を実施してトラブルに巻き込まれないよう指導を行っている。

那賀川河川敷岩場の整備について

Q 那賀川の岩場には、オキナグサやナカガワノギク・アオヤギバナ・ウメバチソウ・ホソバリンドウ・キシツツジ・シランなど、多くの花々が四季折々に咲いているが、未整備のため遊歩道が荒れていたりゴミが散乱しているところもある。今後の対応について。

福多士郎教育次長

A 細淵橋周辺の環境整備については、2021年関西ワールドマスターゲームズに向けて整備を行う予定となっている。同時に希少な植物の保護保存に努めたい。



福永敏行議員

低未利用物件について

Q 町内における低未利用地（山林以外）及び建物において、行政管理のもと低未利用と考えられる物件がどれくらいあるか。また、それらの取扱いについて伺いたい。

新居宏総務課長

A 低未利用物件は、ハコモノとインフラに分けられ、公共建築物のハコモノの施設数は約354施設あり、その内低未利用施設数としては把握していないが、公共施設維持管理計画に基づきマネジメントしていくことになる。

峯田繁廣副町長

A 遊休施設等の活用については、民間事業者等への有償での貸付も積極的に進めていきたい。



新居敏弘議員

上那賀病院使用料・手数料条例について

Q 第5条で「使用料及び手数料の減免」の規定があ

り、これを有効に使うためにも基準が必要だと思いが、基準の策定はされたのか。第2条の「療養に要する費用の額」は一部負担金のことと思うが、これも手数料に含まれるのか。

池田繁人保健医療福祉課長

A 公的医療機関の減免措置の基準に関しては、国民健康保険施設ということもあり、現段階では国民健康保険法に基づいて考えなければならないと思う。現状はできていないが、他の減免に関する部局・財政当局等と協議していきたい。また、「療養に要する費用の額」は手数料に含まれない。

坂口博文町長

A 国・県の指導状況もあろうかと思うし、その中でまたいろいろと検討して参りたい。

加齢性難聴者への補聴器購入助成について

Q 補聴器をつけることで難聴者の社会参加や認知症予防にも効果があるとされている。高齢化が進む中、加齢性難聴者の生活の質向上のためにも補聴器購入への助成制度創設の考えはないか。

池田繁人保健医療福祉課長

A 他の自治体では、加齢性難聴の補聴器助成を行っているところもあるが、色々な制限があると聞いている。近隣自治体の現状を聞きつつ、現状としては医療機関で受診して医師と相談しながら、障害があると診断された場合、役場窓口担当へ申請し、今の制度の中で対応していただきたいと思う。

坂口博文町長

A できる限り今の制度を活用し、補聴器に重きを置くのか、医療介護に重きを置くのか、今後の財政状況を含め、どちらを優先するのか検討する。

内水ハザードマップについて

Q 9・10月の台風で内水氾濫が各地で起きたことを受け、国交省は全ての自治体に「内水ハザードマップ」の作成を進めるよう通知した。これまでも国交省に早期策定が必要と判定された484市区町村の内、360市区町村で作成・公表されているが、那賀町はこれに該当しているのか。また、「内水ハザードマップ作成の手引き」によると、ハザードマップの公表は印刷物の配布が基本とされているが、これまでに作成したハザードマップも含めそうすべきではないか。

河井伸夫防災課長

A 内水ハザードマップとは公共下水道事業で策定すべきもので、那賀町は該当しない。那賀町ハザードマップはウェブ上で公表。本来印刷物で周知すべきだが、毎年情報更新されているので落ち着いたタイミングで配付したい。



柏木岳議員

学校存続のため少人数でも全国トップクラスを目指す学業・スポーツ教育の具体的方針について

Q 学力レベルを上げるには一定の競争人数が必要だと認めると、少数学校はどうやって生き残っていくのか。また大人数のスポーツに人気が集中するのでは少数学校は生き残れない。学業もマンツーマン教育は勿論、シングルでも全国トップクラスを目指すスポーツに集中投資すべきだが、具体的方針を明示してほしい。

坂口博文町長

A 限られた子どもだけという感覚、それは義務教育校としての問題も出てくるのではないかと思っている。現段階での那賀町の状況からして、そこに（指導者を含めて）特化するということについては私としては如何なものかと思っている。

岡川雅裕教育長

A 勉強する意味を子どもたちに気づかせられるように、保護者と先生が共通認識をもって総合的に学力の向上を目指していただきたい。

林業従事者寮を作ったあとの従事者の状況について

Q 現在、入寮者数は何名で、どういった属性の方なのか。また平野にあるショートステイ向け施設の現在の入居者は何名か。

上田善浩林業振興課長

A 「フォレストージ令和」の入居者は現在3名。内1名は平野のおためし住宅から転居した方で、残り2名是那賀高校森林クリエイト科から町内の林業事業体に就職され、この春から入居している。また、平野のおためし住宅については、現在2名が入居している。なお、単身で入居できる当施設があるということが徳島林業アカデミーや森林クリエイト科を卒業する方の進路決定にあたり大きなアピールポイントとなると考える。

橋本浩志参事

A 林業アカデミー生等からも那賀町に単身で住める施設があるなら住んでみたいという意見も聞いており、林業従事者を確保する上では、町内で単身者が住める少しキャパのある「フォレストージ令和」という施設があることが望ましいと考える。今後は、PR用のパンフレットを作成し配布する等して、林業従事者の確保に努めたい。

養護老人ホーム福寿荘に参画しているメリットについて

Q 養護老人ホーム福寿荘が那賀町に果たしている役割を述べてほしい。また現在、何名の町民が利用しているのか。投入費用を部門別に挙げてほしい。

峯田繁廣副町長

A 養護老人ホームはいわゆる介護施設ではない。介護の必要はなくても、精神的・身体的・環境的または経済的な理由で困窮し、自宅で生活できない高齢者が入居できる施設である。そういった性格から老人の最後の砦と言われ、高齢者にとって重要な施設である。町からの費用負担は、平成30年度は、一般管理費として1077万1000円、入居者の老人保護措置費負担金として延べ8名分・1327万7910円を支出している。



大澤夫左二議員

国道195号改良促進期成同盟会発足について

Q 役員・人員の構成・活動予定について。また白瀬トンネルの本測量予算獲得の現時点での状況は。

吉岡敏之建設課長

A 人員の構成は、那賀町2名、那賀町議会14名、那賀町商工会・木頭森林組合・徳島県建設業協会那賀支部から各1名、那賀町有識者5名。役員は会長・副会長・理事6名・監事2名と考えている。活動内容は主に関係官庁との連絡及び陳情となっている。

坂口博文町長

A 「195号線をよくする会」が発足された後に、「よくする会」の主だった役員の方々にお集まりいただき、正規の期成同盟会を是非お願いしたいということをお話して、その場で御理解をいただいた。白瀬のトンネルの問題は地質調査を含めて調査をしていたにいてというのが現状。今後においては、本格的な調査・測量設計を含めて要望に参りたいと思っている。

町の主な事業計画について

Q 鷲敷体育館新築を始め、財政逼迫の今、緊急性・重要性・維持のための構造など、事業の大小に関わらず優先順位等、一層厳しくならざるを得ないと思うが、事業を順調に進めるためには構想段階から議会で議論ができるようにすることが、地元や町民の理解を深めるためにも必要と考えるがどうか。

坂口博文町長

A 緊急度合い・順番については、議会の皆さん方とも充分協議をして参りたいと思っている。

福多士郎教育次長

A 鷲敷体育館の新築については、設計予算の段階から議会とも協議をお願いしてきたが、今後においても

充分協議をお願いし、御理解をいただけるよう努力したい。

鳥獣害駆除捕獲対策事業について

Q 平成17年7月に委託事業として始まり、目的・効果は果たしてきたと考えているが、15年経ち、鹿・猪の産業化も進む今、全員協議会で協議したいと思うが、担当課ではどう考えるか。

後藤交峰農業振興課長

A 平成21年度より報奨金制度を導入し飛躍的に駆除は行われてきたが町財政を逼迫している。農地に引きつけない予防、柵による防護、被害個体の駆除により地域住民が連携した体制づくりの整備が必要。

小水力・太陽光発電構想と自然災害時の対応策について

Q 町に今も構想はあるか。

北谷損文環境課長

A 那賀町の自然エネルギーを活用した取り組みは、小水力発電で岩倉地区に1基を設置、また太陽光発電は相生包括ケアセンター・上那賀病院・木頭診療所に太陽光発電設備と蓄電池を導入した。病院等の太陽光発電設備については、施設の一部電力としても活用しており、災害時にはこの電力を必要電力として活用することができる。現在その他に新たな構想としてはない。

坂口博文町長

A 災害時の対応としては、小水力・太陽光にも課題があり、非常用の発電機等(家庭用の発電機も含めて)の活用も併せて対応したい。